

「平成 25 年度指定」

「生きる力の育成」

先生と親が一体となって子ども達の「生きる力」を育成する P T A 活動

小郡中学校 P T A

学校長 松原秀樹
P T A 会長 岡崎雄一郎
生徒数 634 名
所在地 〒754-0002
山口県山口市小郡下郷 879-1



1 学校経営方針

○教育目標

高い知性と豊かな情操を有し、自主・創造の力と敬愛の心にあふれ、勤労と責任を重んずる、心身共に健康な実践力のある人間の育成に努める。

○校訓

真理 自律 敬愛 寛容 勤労

○小郡中学校の生きる力

- ・ 自分をみつめる力 (真理・自律)
- ・ 他者とつながる力 (敬愛・寛容)
- ・ 自分を育てる力 (勤労)

○めざす生徒像

- ・ 時間を守る生徒 (自律)
- ・ 礼儀正しい生徒 (敬愛)
- ・ 掃除をする生徒 (勤労)

○めざす学校像

- ・ スタートのことを大切にする学校
- ・ 出会い場を大切にする学校
- ・ 生活のことを大切にする学校

○学校経営方針

- 1 一人ひとりの夢や知恵を育み、生きる力を育成する
 - (1) 学力向上の視点から、基礎基本の定着を図り、「確かな学力」を保障する
 - (2) 自己実現・社会貢献をめざし、豊かな人間性や社会性を育む
 - (3) たくましく生きるための健康や体力を増進する
- 2 信頼と敬愛を基調とした人間関係づくりの推進に努める
 - (1) 積極的な共同体制の保持・向上をめざして、全教職員の力を結集する
 - (2) 家庭及び地域社会との連携を密にし、「開かれた学校」づくりに努める
 - (3) コミュニティー・スクールを推進し、小・中学校及び中・高等学校の一層の連携を図る
- 3 創造と活力あふれた教育活動を推進する
 - (1) 学習ガイダンスを充実させ、学習環境の整備、学習規律の向上を図り、自ら学び自ら考える力を育成する授業づくりを推進する
 - (2) 学習内容によるコース移動等の工夫による少人数指導を推進する
 - (3) 豊かな人間性や社会性を育むために、教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間、朝夕の会等の関連を図る
 - (4) 読書活動の充実と機能的な図書室経営を推進する



2 P T A組織図

会長・副会長 監事		
理事会	総代会	総会
部会・専門委員会		
学級部会	専門部会	
第1学年委員会 第2学年委員会 第3学年委員会	文化委員会 保体委員会 生活委員会 広報委員会	

3 P T A活動内容

第1学年委員会

- ・学年ひろば
- ・運動会
- ・友愛セール

第2学年委員会

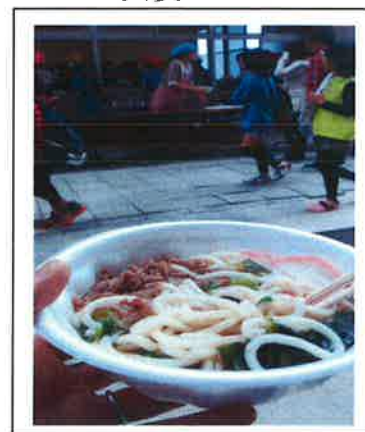
- ・学年ひろば
- ・運動会警備
- ・バザー（ジュース、おにぎり販売）

第3学年委員会

- ・学年ひろば
- ・進路説明会
- ・運動会警備
- ・バザー（うどん販売）



友愛セール



バザー（うどん販売）

文化委員会

- ・文化祭出し物
- ・人権講演会

保健体育委員会

- ・校内マラソン大会警備
- ・運動会 P T A 参加競技
- ・学校保健安全委員会

生活委員会

- ・校外モニター会議 年 1 回開催
- ・「ひまわり」発行 年 2 回
- ・地区のつどいの開催
- ・講演会

広報委員会

- ・広報誌「きぼう」 年 3 回発行



運動会 P T A 参加競技



講演会 (情報モラル講座)



運動会バザー販売



地区の集い



山口市 P 連定例会 出席



中国ブロック大会 出席

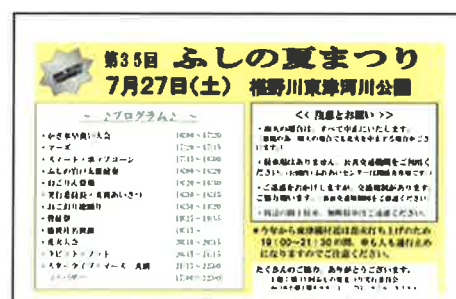
4 研究主題について

子ども、先生、親と一緒に活動するPTA

中学校のPTA活動は、小学校のPTA活動と違って、子ども、先生、親と一緒に活動する機会が少なくなっています。これは、子ども達の成長を意味するもので、運動会、文化祭、他のほとんどの行事は、子ども達で運営されています。親である我々は、それを外から見守っている、こんな感じです。

小学校の時の活動の忙しさに比べると、活動が少ないのでホッとするところもありますが、関わりが少ない分、寂しさを感じる親御さんもいらっしゃるのではないのでしょうか？そんな中、本校PTAでは、子ども、先生、親と一緒に活動する機会をつくりたいと考え、学校と協議し、今年は夏休みに開催される、地元、小郡のお祭り「ふしの夏祭り」に参加することを決めました。

参加の目的は、郷土のお祭りに参加（運営側のボラティア）することによって郷土愛を育ててほしい。学校を卒業し、地元を離れても、郷土を想う気持ちを持ち続けてほしい。お客様に接することによって、運営の大変さを体験してほしい。先生、親との連携・協力のもとに、1つのことをやり遂げる達成感を体験してほしい、などです。



5 活動内容

参加することは決めましたが、どのように関わりを持つのがいいのか？お祭りの実行委員会は受け入れてくれるのか？何かできることがあるのだろうか？昨年まで夏祭りへの参加はしていないので、どのルートで話を持って行けばいいのかさえ、分からない状態で、「やらないより、やった方がいい」それだけを心の支えとした出発でした。

① おごおり地域づくり協議会（ふしの夏祭り実行委員会）への挨拶。

今年は、初年度なので、お祭りの運営母体の実行委員会のお手伝いとして、中学生を配置させていただき、準備、当日の運営、後片付をさせていただこうと、お願いに伺いました。何をさせて頂けるのか全く分からないまま……。すると、実行委員会の方から言われた言葉は、「校長、教頭、PTA会長がそろって来られ、今頃になって、中学校が協力したいと言われるので、素晴らしい案をお持ちになってこられたと思えました。何も持ってこられていないのですね」でした。最初は意味が分からず、戸惑いましたが、聞けばこのような歴史がありました。



お祭り自体は今年で 35 年続いています。当初の運営母体は吉南 J C でした。しかし、J C の会員不足からの運営自体が人手不足で難しくなったようです。そこで、5 年前からおごおり地域づくり協議会が J C から引き継いで、運営母体となっています。引き継がれた初年度は本当にご苦労されたとお聞きしました。地域あげてのお祭りにするため、その初年度、小郡中学校に、同窓会ブースを出されたらどうですか？とのオファーをされたみたいです。どのルートでされたかは、不明ですが、その時は小郡中からの返答、アクションは全くなかったようなのです。そういう経緯があり、「今頃になって……」と言われたのでした。

地域と交わりながら中学校は存在していると思い込んでいた私達にとって、地域との交流が出来ていないところがまだまだあると思い知らされた一言でした。その日からは、気持ちを切り替え、お祭りの実行委員会の会議にも毎回出席し、こちらの情報を発信したり、情報収集に努めました。

② ふしの夏祭りでの売店の出店

何度か協議をしていく中で、お手伝いをしてもらうにも、出来る作業と、出来ない作業があったり、夜間のお手伝いでは、防犯上の問題も出る。ブースを提供するので、中学校の責任の上で、何かをやってほしいとの意見をいただきました。そして内容は中学校に任せる、ということになりました。

次は、中学校との協議です。PTAで協議し、バザーでやった、経験のあるかき氷と、フランクフルトの販売がいいのではという意見にまとめ、中学校からの許可も出て、実行委員会に報告し、正式に売店の出店が決まりました。

③ 生徒の募集

実は、一番苦労したのは、主役の生徒集めです。夏休み子どもたちは部活動真っ盛り。当日は市の大会も重なり、生徒集めに苦戦するだろうと考えていましたが、売店の販売より、友だちと出かけた方がいいという子どもの声も聞こえ、心配していた通りの結果となりました。全生徒対象に第1回目の募集をかけました。その結果、意思表示してくれたのは、たった2人でした。いや、2人もいてくれました。

こりやまずい！ということで、2回目の募集の前に、PTA役員のお子さんを口説いてもらい、その友達を連れてきてもらうようお願い（添付資料1）をした上で2回目の募集をかけました。2回目は、その効果が出て、32名の参加者となりました。全校生徒634名の5%です。

今更、中止することもできず、生徒が集まらなければ、お父さん、お母さんが中学生に変装し、売店販売をしないといけなかったところでした。

その後、子どもを集めての会議を行い、当日の役割分担、時間配分、接客への注意などの打ち合わせをしました。



④ 当日の出店

当日の販売は 16 時から 20 時の 4 時間です。20 時からはお祭りの目玉、花火大会です。今回準備した販売個数は、かき氷 1000 杯、フランクフルト 450 本です。完売するぞ！を合言葉に、皆で声をかけ合いながら、販売していきました。途中売り上げが思うようにいかないの、お客様に来ていただけないのならこちらから売りに行こう！ということで、フランクフルトを駅弁売りのように、花火を見るために陣取っておられるお客様のもとへ訪問販売をしたり、知った顔を見つけては、売店に勧誘したり、やれることをみんなのでやりました。その甲斐あって、終了 20 分前にフランクフルトが完売。かき氷は、カップは余っているのに、氷がなくなり 20 時ちょうどに完売と、目標を達成することができました。訪問販売をしてきた子どもが、「完売しました！」と戻ってきたときに皆から出た、歓声、拍手や、フランクフルト完売の時の、みんなの喜びようは、今でもはっきり覚えています。



6 成果と課題

新しいことを始めるには、それなりのエネルギーが必要です。みんなのエネルギーを結集出来たこと・・・本当に良かったと思います。今回のプロジェクトは、子ども、先生、親の3者が1つにならないと、絶対に出来ないプロジェクトでした。ご協力を頂いた皆様に感謝しています。

子ども達の心の中に今回の取り組みが、どれだけ残ってくれたのか、成果はすぐには見ることはできませんが、来年度以降も、続けて行くことにより、見えてくるのかもしれない。

地域の方々との交わりを持ちながら、また見守られながら、中学校は成り立っている・・・そんなことも、改めて考えさせてもらった、良き夏の日の思い出となりました。

添付書類-1

平成 25 年 7 月 5 日

理事の皆様へ

小郡中学校 PTA 会長 岡崎雄一郎

皆さん、ピンチです！

ふしの夏祭りが近づいていますが、生徒が集まっています！！

ご存知のとおり、7月27日（土）のふしの夏祭りで小郡中学校のブースを出すことは、決定しています。しかし、肝心の生徒が集まっています。一般公募では無理でした。

しかし、諦めるわけにはいきません。諦められない理由があるのです。皆さんの力を貸してください。こうなったら、理事の皆さんの子供と、その友達でやるしかありません。お子さんを口説いてください。お願いします。

私も微妙な距離感のある、中2の娘に頼みました。なんとか了解を取りました。すごいでしょ！なんと娘の友達2人もゲットしました。7月3日（水）現在で、一般公募で2名、私の娘とその友達の3名、計5名集まっています。

今度の7月10日（水）の役員会に口説いていただいた、お子さんと、その友達たちのお名前をお知らせください。数多くの参加を期待しています。

販売は、フランクフルト、かき氷、ジュースを考えています。子供たちの販売時間は、その子の希望を聞きながら、お願いしながら決めたいと思います。

参加してくれる子供たちとの打ち合わせは、7月16、17、18日のどれかで予定しています。

皆様のご協力をお願いします。

以上です